



Think globally, act locally.

杏林大学 社会科学部 菅原ゼミナール

Spring Camp 2003 in Nagasaki



(長崎国際大学菅原ゼミナールの皆さんと)

長崎合宿レポート
2003年2月23日(日)～25日(火)

杏林大学 菅原秀幸研究室
www.SugawaraOnline.com

旅程

23日(日)

- 9:25 羽田空港集合
10:25~12:20 ANA663 羽田空港 長崎空港
バスで長崎市内へ移動 長崎市内観光
18:20 長崎駅前集合 バスでハウステンボスへ移動
入口から送迎バスでホテルまで移動 チェックイン後、自由時間
22:00 ミーティング、反省会
24:00 就寝

24日(月)

- 起床、朝食
ハウステンボス内 自由行動
13:30 ハウステンボス入口集合 徒歩で長崎国際大学へ移動
14:00~18:00 交流会
18:30~21:00 懇親会
23:00 ミーティング、反省会
25:00 就寝

25日(火)

- 起床、朝食
9:00 ハウステンボス入口集合 バスで長崎市内へ移動
12:30 原爆資料館入口集合 原爆資料館見学
13:00~14:45 平和学習 語り部の方にお話しをうかがう
16:15 長崎県営バスで長崎空港へ移動
18:20~19:55 ANA670 長崎空港 羽田空港 解散

行動班

1班	2班	3班
小澤 久美子	岩崎 雄樹	今村 忠裕
栗城 宏行	坂本 佑美	立川 孝司
戸井 俊夫	遠藤 裕史	栄村 沙也可
神田 勉	岩井 剛一	関根 大輔
建木 麻由	川口 裕之	中村 光一
渡辺 裕一郎	富田 歩	山下 由佳

ホテル部屋割り

A	B	C	D	E
坂本	小澤	栗城	今村	戸井
山下	栄村	立川	岩崎	遠藤
建木	富田	川口	岩井	神田
		関根	渡辺	中村

長崎研修旅行

3年 戸井俊夫

長崎研修旅行を以下の二点で振り返りたい

- 1, 反省点
- 2, 良かった点

1, 反省点

訪問する前に情報を交換していたにもかかわらず、僕らの学校と長崎国際大学との意志の違いなどにより、結果として相違が見られた。

自分の中で長崎研修旅行は沖縄研修旅行ぐらいになればいいと思っていた。特に交流会はグループを作って話し合いをすればいいぐらいに考えていた。ふたを開けてみると向こうの大学は7人、こっち20人ぐらいいたにも関わらず完全に押されていた。しかも相手はペアポを使いゼミの研究を説明したのに対してこちらはしゃべりだけ。恥ずかしいというか情けなかった。質問の時なんか、いかに今まで先輩に頼っていたんだなと痛感した。普通に考えたらペアポを作るなんて散々今までゼミでやってきたのだから難しいわけではない。沖縄研修旅行の後にはレポートを書いたわけだから長崎研修旅行の方が良くなって当然。やはり、すべての事に対してどうにかなるだろうという甘い気持ちが自分にはあった。それが、今回の一番の反省する材料であり次回から改善していく一番の要因だと考える。

今回は2年生が主役みたいな所あった。だからあまり今回は協力的でなかった。しかし、よく考えると2年生は初めての研修旅行であって分からないこともたくさんあったはずだ。普通だったらバックアップしていくのが3年生の役目だと思うがその点についても怠っていた。

2, 良かった点

2年生との旅行ということで、2年生との距離が縮まった。

(あまり話せてない人と話せたり、ゼミをどう思っているか聞いたこと)

みんなで研修旅行に行ったことで、反省もいっぱい出て、改善していく点も出た。ゼミ全体のモチベーションが上がったこと。

最後に

今回は今村君がいたからこそまでの研修旅行ができたと思う。いろいろなところで先頭に立って大変だったと思いますが本当にご苦労様です



旅行先が長崎に決まったのは、1月に入ってからだった。長崎に決まった時、これは自分が役に立つチャンスだと感じた。3年次は思うようにゼミに貢献出来なかった。ここで、取り返すということではなかったが、出来る限りがんばってみようと思った。

1. 計画に際して

旅行先が決まり自分の役割を考えた。ベストは、2年生の手で計画出来るような環境作りと先輩として相談役になることである。しかし、2年生が自ら進んで計画することは難しいと知っていた。やはり、意欲の低さと、わずらわしさからだまって見ていることは出来なかった。成功させたいという欲もあり、旅行行程から交流会の相手探しまで一人でしてしまった。それは2年生のためにはならないこと、また、自分の悪い癖であることも分かっていた。成長する貴重な役割を取り上げてしまったことに関して、しかたないという思いと辛抱が足りないという思いが残る。直接指導ではなかったが、2年生の旅行係が、今回の良かった点、悪かった点をしっかり認識して今後の旅行計画を立てることを期待する。

1) 良かった点

交流会はとても有意義であった。参加した全員がそれぞれ勉強になったと思う。語り部に関しては何人かは強いショックを受けたであろう。まあ、はっきり言って期待するような成果があったか分からないが、親睦会でみんなが酔っ払ってくれたことは、正直、とても嬉しかった。吉原ゼミのみんなも楽しんでもらったようで何よりである。ただ、目的であったゼミ生同士の交流が達成出来たかは不明である。

2) 残念に思う点

何人かの参加者から「意欲」が感じられなかったこと。「やらされている」という意識から「面倒くさい」という思いが発生するのだろう。せっかく時間とお金を使って参加しているのだから「参加してよかった」と言ってもらいたかった。なにか勉強しようとか、楽しもうとか、そういう感覚を持ってない参加者がいたことは、一人で計画してしまった自分に責任があるのかもしれない。

3) 計画者として期待すること

今回の旅行が、それぞれの意識改革になったなら良かったと思う。自分を認識し「よし、がんばろう」と思ったのであれば、意味があったと思える。それぞれ、交流会で感じた屈辱や後悔、また、反省会での気持ちを忘れないで欲しい。

2. 参加者として

1) 良かった点

1. ホテルが素晴らしかった。朝食のバイキングもビックリするほど満足であった。低料金で旅行できたことが、今回の旅行一番の謎である。
2. 交流会で「ホスピタリティ」について勉強できたこと。ホスピタリティは一方的な「もてなし」ではなく、相互交流の中で発生するある種の「感覚」であることが分かった。ホスピタリティとサービスの違いが分からず、自分がものごとを、すぐ経済的に判断してしまうことに気付き、悪い癖だと思った。
3. 懇親会で久々に酔っ払って良い気持ちになった。はしゃぎまくって、とても楽しかった。

2) 残念に思う点

1. ジャパネットたかた訪問できなかった。たかた社長とツーショット写真が取れなかったことは残念で仕方がない。
2. もう少し観光したかった。時間に余裕がなかったので仕方がないが、出島も見てみたかった。
3. 語り部が思ったより衝撃的でなかった。

4) 反省点

1. とにかくもっと早く計画を立てる。
2. ひとり一人が「意欲」を持つような旅行計画をする。
3. ゼミとしての「目的」を明確にする。



(長崎国際大学吉原ゼミ生のプレゼンテーションに圧倒される菅原ゼミ生、この日、菅原ゼミは完全に吉原ゼミに敗北を喫した)

長崎合宿のレポート

3年 岩崎 雄樹

- 1・この合宿の意義
- 2・吉原ゼミの人たちとの交流会
- 3・原爆資料館にて出口輝夫さんのお話
- 4・今回の合宿での反省点・改善点・感じたこと

1 この合宿での意義

はじめに、この合宿を仕切ってくれた今村君に感謝の気持ちでいっぱいである。

私は、今回の合宿は就職活動中というのと、高校の修学旅行で長崎を訪れたことがあるということから、正直あまり乗り気ではなく、観光気分でした。しかし、初日の班行動で、ただの観光旅行ではなく、ゼミでの合宿だということを再認識させられた。それは、6人班で行動をしていたが、その中で4年生がいなく自分自身が最高学年となり、責任感ということを強く感じたからである。団体行動というのは協調性が大事になり、誰かが引っ張っていかないと、まとまらないものだ。3年である自分自身が班を引っ張り、班のメンバーをより仲良く楽しませようと思った。2年生もそれなりに、班行動には協力してくれた。班行動に関しては、それなりにだけれども、うまく楽しくやっていけたのではないかと振り返ります。

この合宿で、もちろん2、3年生との交流が深まる目的もあるが、やはり環境が変わることで、いかに自分自身を出して協力して、何を考え、何を学んだかということが重要になると強く感じた。

このゼミでの合宿で、学べるチャンスは多々あると思う。それを生かすも殺すも自分次第である。そして、最高学年という立場から2年生に、ゼミでの姿勢、取り組み方というものを行動で表さなければいけないと感じていた。それと同時に今まで自分が4年生に甘えてゼミにぶら下がっていたことを強く感じた。

2・吉原ゼミの人たちとの交流会

長崎国際大学の人たちと交流会を行った。私たちが暖かく受け入れてくれた。そして、お互いに自己紹介やゼミでの活動報告をした。そのときに、私は愕然とした。なぜならば今回の交流会への意気込み、姿勢が違いすぎたからである。私は、はじめに海外旅行のことについて発表して、少し良い事が言えたのではないかと考えた。しかし、吉原ゼミの発表を聞いたときに、さっき自分が少しでも満足してしまったことが、本当に情けなかった。先に発表されていたらみっともなく発表できなかったかもしれないぐらいである。ここで、強く感じたことがゼミに対する姿勢、取り組み方の相違である。とてもよい刺激になったと思っている。

吉原ゼミの発表で印象に残ったことは、ホスピタリティーという概念と円卓形式である。ホスピタリティーというのは、私自身知らなかった概念だが、非常に強く関心を持った。それは、私自身も、他者と接することで影響され自分自身が成長したと感じたことがあるからである。もう一つの円卓形

式とは、リーダーシップの本来の意味である関係者に働きかけて、動かす影響力を行使することというのを縦の関係ではなく横の関係で、ゼミでの役割分担をしてかくリーダーを作るというものだ。これには、私たち菅原ゼミもおおいに取り入れて参考にする価値が充分にあると考える。私自身、極力ゼミ長の戸井を補佐しているつもりだが、結局は戸井に任せてばかりいる。この考えの元、皆がリーダーであるという自覚を持つことで、自分の役割を認識して、責任感が生じ、よりよく機能すると考えるので、今後この概念を見習うべきだと強く考える。

この吉原ゼミとの交流は、自分たちのゼミがまだまだで、これから改善の余地ありと強く感じた結果となり、非常に良い刺激になったと感じた。

3・原爆資料館にて出口輝夫さんのお話

原爆資料館にて、被爆者経験のある出口輝夫さんのお話を聞いた。私は、高校生のときに同じように違う被爆者の方からお話を聞いたことがあったが、そのときよりも、非常に強いインパクトを受けた。それは、ご本人も気をつけていることだが、決して同情を引こうとしているのではない。事実をそのまま伝えてくれた。自分が死人リストに載っていたこと、なぜ長崎に投下されたのか、原爆の構造、威力、ご自分の体験談を被爆者の立場からお話いただいた。

このお話の中で、私自身がメッセージとして、受け取ったことは、主権者の義務を果たせということ、物事、問題に対してなぜだろうと考える姿勢、そしてチャレンジ精神である。主権者の義務とは選挙へ行き、政治家を自分自身で選び投票するということだ。私は一度も投票したことがない。なぜならば自分が主権者という自覚がないからであった。しかし、今回のお話を聞き、他人事ではないと強く考え、政治家を調べ、今後は必ず投票すると決心した。

次に見過ごしてしまうことをなぜだろうと考えることだ。これは、何でなんだろう、どうしてそうなるだろうと自問自答して、考えることだと解釈しました。チャレンジ精神とは、出口さんも60歳を過ぎてから原爆について学んだとおっしゃっていた。これは、まさしくチャレンジであり、向上心があり、物事をはじめることには決して遅いということはないと感じた。

今回のお話で、私たちは何からできるだろうと考えること。約50年前に広島と長崎に原爆が落とされたという事実を理解し、受け止めること。そして、私たち若い世代がこれから先この事実を伝えていかななくてはならないことを再認識した。衝撃が強すぎて、うまく言葉に表せないが、出口さんのメッセージは伝わった。そして、私がまずできる、政治家を選んで投票するというところからはじめます。出口さんのお話は何かからだの芯に強く突き刺さった感じを覚えました。

4・今回の合宿での反省点、改善点、感じたこと

反省点、改善点として、この合宿に対しての事前の取り組み姿勢が欠けていた点である。やはり、他人任せではなく自分が自分という気持ちを持つと感じた。最高学年として、後輩にもっと行動で示さなければ説得力がないと感じた点。自分なりに多少示せたつもりではいたが、見本になるまでには全然至らなかった。今後、後輩の見本となるよう行動していきたいと感じた。

今回の合宿で、自分を含めたゼミのメンバーが、今後のゼミのあり方、自分に足らなかった点、ではどうしたらいいかと考え、具体的な行動に少しでも移してくれたら、少なからずの収穫はおおいにあったと感じる。

自分自身も再認識したこと、具体的にはゼミへの姿勢が、変わらなくてはならないこと、ではどうしたらいいかと、考えることができたことが収穫となった。そして、なにより楽しく二泊三日の合宿を満喫できました。

以上



(長崎国際大学の学生とのグループ・ディスカッション)

- : 今回の合宿を通して学んだ事、有意義だった事
- : 反省すべき点・改善点
- : 合宿全体を通しての感想

: 今回の合宿を通して学んだ事、有意義だった事

今回の合宿で学んだ事、有意義だった点としては、2つある。一つ目は、長崎国際大学の吉原ゼミの人たちと交流したことである。「これが大学生だ！」というのを考えさせられた。初めに、長期休暇中や就職活動中にもかかわらず、私たちとの交流会に参加してくれたことを感謝したい。最初に交流したときは、「長崎の大学生は皆こうなのだろうか。何てノリのいい人たちで、テンションが高いのだろう。」というのが第一印象だった。しかし、テンションが高いだけでなく、研究しているレベルも高く、ゼミの打ち込み方にも驚いた。

まず、私たちがプレゼンした一つ一つに対し、どんどん質問してくれたことだ。それに対して上手く応えられなかったことが恥ずかしかった。そして『ホスピタリティ』というテーマがしっかりと設けられており、丹念に調査されていた。プレゼンも power point でしっかりと用意してくれており、分かりやすく堂々と発表していた。正に1つのことについて研究していた。菅原ゼミも厳しいというが、この吉原ゼミはもっと厳しく日々訓練されているというのが伝わってきた。私たちが、交流会を企画した側にもかかわらず、それに対して応えられていないのが申し訳ないと思った。『ホスピタリティ』というのは、簡単にいうと『出会い、触れ合い、高めあい。』というものだった。言葉は聞いたことがあるが、意味までは知らなかった。初めは、なぜこのような言葉を浸透させる必要があるのだろうと思っていた。なぜなら、こういうことは知らないうちに行っているものであり、あくまで自分自身の問題であり、それを他人に言われるよりも、必要とするかしないかは自分次第であるからだ。しかし、後から考えてみると、人と平和に暮らし、上手く人間関係を築いてくには、必要なかもしれないと思った。そうした『ホスピタリティ』について考えることができたということもあるが、積極性ということについても考えさせられ有意義なものとなった。

吉原ゼミの人たちは、自分たちが考えたことも実行に移し、満足しているという。私たちが適当にやっていることを、しっかりと話し合い、自分たちの力を発揮しやすい環境を自ら作り出していた。凄いと思った。東京の人と何が違うのか。やはり、元気さからでるパワーややる気である。飲みも激しかった。

2つ目は、長崎原爆資料館で語り部さんのお話を聴くことができたことである。原爆資料館は2回目の訪問となったが、高校の修学旅行の時とは、以前沖縄やベトナムへ訪問した経験から、違う視点で見学することができた。

長崎の原爆の話は、沖縄の話と同様、リアルだった。語り部のルールとして自分の体験を誇張してはいけなく、間違ったことを話してはいけないというのがあり、決して嘘ではない、現実の話である。

『原爆の爆風で、ふっとんだ』というのと被爆者の写真が今でも心に残っている。暴力で戦っても、何も解決しなく、憎しみや怒りが残るだけである。だからこそ、もう2度と同じ過ちや思いは繰り返してはいけなく。しかし、アメリカはまた同じ過ちを繰り返そうとしている。同時多発テロで多くの人を失った悲しみを忘れてしまったのだろうか。また、罪のない人たちを殺そうとしている。暴力で解決するのなら、是非止めていただき、他の解決策をもう一度検討していただきたい。

: 反省すべき点・改善点

今回の合宿で反省すべき点は、長崎国際大学でのプレゼンの用意ができていなかった。事前にどんな感じでやるのかももっと話し合うべきだった。そして、長崎原爆資料館で菅原先生がおっしゃられたように語り部さんがせっかく話をして下さったにもかかわらず、さっさと退室してしまったことだ。私たちに、もうこんなことは起きてはいけなくと伝えるために嫌な体験を話して下さったのに恩を仇で返してしまった。長崎国際大学の方々のごことも含め、やはりこちらから頼んでやってもらっているという意識が必要だと感じた。以上のことをしっかりと肝に銘じ、次に活かしたいと思う。

: 合宿全体を通しての感想

長崎市内での自由行動は、私が初めから地図をもってしまったためか、路線電車の進路方向を間違えてしまった。しかし、人に尋ね、自分の足で歩き、思った方向に進むのも楽しかった。高校の時とは違った長崎を知ることができた。おかげで、2年生との交流も深まったと思う。

沖縄合宿に比べるとスケジュールがゆったりとしており、2泊3日での交流会(飲み会)は1回で丁度いいと思った。

旅行から帰ってきて次の日、ハウステンボスが倒産に追い込まれているニュースを聞いて驚いた。昨日まで泊まっており、とても華やかだった場所だったため信じられなかった。しかし、よく考え

てみると衰え始めたのはバブル崩壊後だというのが、4年くらい前に訪問した時よりは栄えてなかったかもしれない。

長崎合宿のレポート

3年 坂本 佑美

(1) 今回の合宿を通して学んだ事、有意義だったこと

今回長崎国際大学との交流会や原爆資料館へ行くことで、改めて意識の違いを学ぶ事になった。

まず、交流会ではお互いの研究内容を発表した後、グループに分かれて話し合いをした。その際、私が一番聞き取ったことは戦争、原爆についての考え方だった。私のグループに長崎国際大学の人は二人いたが、彼らの意見は対照的なものだった。一人は原爆について過去のものとしていて、原爆資料館に1度しか行ったことがないと言っていた。どちらかというともこの人の意見に近いだろう。しかし、もう一人の意見は長崎県民として原爆について知らなければいけないといったものだった。彼は毎年のように原爆資料館に行っていると言っていた。これには驚いた。私と同じ年で戦争を体験していない彼に、改めて戦争について話されると自分の意識の低さを指摘されているような気持ちになった。

そして、最終日に行った原爆資料館。私は以前に一度だけ訪れたことがあったが、そのときは「あまり見たくない」という気持ちと、修学旅行ということで流しながら見ていたので内容をあまり覚えていなかった。自分が情けなかった。

今回はじっくり見た。20分では全然足りなかった。長崎原爆の被害者の数を今更ながら初めて知った。

そして語り部である出口さんの話を聞いた。原爆の構造や落とされた当時の様子、そして現在に至るまでのことを直接聞いたのは初めてだった。聞いた今でも戦争の実感がわからないのは事実である。しかし、これを繰り返さない事、忘れない事が重要なのだという事を改めて学ぶ事ができた。

(2) 反省すべき点

- ・長崎国際大学との交流会のとき、彼らは細かい準備を行っていたことに対し、私は少し調べた程度だった。交流会をする事はわかっていたのだからきちんと準備をすればよかった。
- ・時間を守れなかった。集団行動であるのに自分本位な行動をとってしまった。
- ・班行動の際、長崎市内について知識が無かったため、行き先を決めるために手間取ってしまった。

(3) 改善点

- ・しっかりとした計画、準備をしていく。
- ・個人が責任を持つようになるべきである。
- ・場面によって臨機応変な対応を出来るようになる。
- ・積極的に行動する。

(4) 感想

私にとっては2回目の長崎であった。あの値段であれだけ素敵なホテルに泊まることができてうれしかった。それにも関わらずホテルにいる時間がほとんど無かったことがもったいなかったと思う。

ハウステンボスには初めて行った。チューリップが満開の時期で本当に綺麗だった。もう少しゆっくり滞在したかったのが本音である。

長崎市内の自由行動の際、前もって計画を立てていなかったので立ち往生してしまった。前回の合宿であったタイ・ベトナムでも迷う事は多々あったが、地図を買い、下調べをするという準備はしていた。今回、地図はおろか何も調べていなかった。同じ日本ということで気を抜いていたのかもしれない。言葉が通じる有難さを感じた。

全体を通してもっと自分で行動し、周りを見ることの出来る人にならなくてはいけないという事を痛感した。指揮をとってくれた今村君に感謝します。

また、初めて2年生とゆっくり話しをする事ができたように思うのでよかった。

今回の合宿の経験を生かし、次回に繋げていきたい。

長崎合宿

2年 健木 麻由

長崎は私にとって二度目の訪問となった今回の合宿だが、高校の修学旅行で訪れた時と比べて、長崎の大学に通う学生との交流会と原爆を経験した出口輝夫さんのお話により、一味違った長崎を見る事ができ、とても良い経験ができたことを嬉しく思っている。

二日目の長崎国際大学の吉原ゼミとの交流会では、自分たちの準備不足やゼミに対する意欲、パワーポイントを使ったプレゼンテーションの上手さといったことに対し、レベルの低さというものを感ぜずにはいられなかった。

私たち菅原ゼミのゼミ説明に関して、パワーポイントでのプレゼンテーションができなかっただけでなく、レジュメすら用意できなかった。しかし吉原ゼミは、パワーポイントだけでなく、私たちが理解しやすいよう、レジュメまで用意されていた。

そして、吉原ゼミの2年の調査報告書は、とてもよくまとめられており、調査方法・調査対象から結果報告から考察まで、調査内容が事細かに述べられ、反省点まで踏まえてある。果たして自分だったらここまでしっかりとした調査報告書が作れたかどうか疑問だ。

また、プレゼンテーションにおいて、同じ2年とは思えないほど発表しなれていて、自分たちとの差を見せつけられたという印象を受けた。

私たちの質問を受けての応答も、経験が浅いわりに、しっかり答えられていたような感じもした。

その後の3年からの説明では、縦軸の繋がりから横軸の繋がり「円卓型」という発想を自分たちで考え、実行し、スムーズにゼミ活動を行っていくことを考えているんだと感じた。私はただ、上の人たちが行ってきたことを引き継いで行くだけで、そのようなことを考えようともしなかった。そして、司会すら一人では行えない自分がただただ恥ずかしいというか情けなくてたまらなかった。

途中で設けた休憩では、九州に住んでいたこともあり、そのことで少々話が弾んだことだけは、お互いの距離が少しでも近づき良かったと思う。

ただし、親睦会では思うように話ができず残念な思いをした。しかしそのような中で、お互いの連絡先を教え合った人がいたこともまた事実であり、それは良かったことだと思う。

三日目の原爆資料館での、出口輝夫さんのお話は、自分が予想していた話とは少し異なっていた。

私が予想していた話とは、原爆体験記のようなものだ。

確かに、原爆体験記もお話されたが、それよりも、今後このようなことが起こらないようにするために、一人一人が自分の考えを持ち、行動しろという話のほうが、私はとても印象に残っている。例えば、折角、選挙権を持っているのだから、持っていない人たちを代表して選挙に積極的に参加し、自分の考えを持って政治家を選ぶことといった話であった。

これは、私は参加できなかった日本銀行元総裁の三重野先生のお話と似た内容だったように思った。

また、原爆死した人の中に、自分の名前があったことに関して、私だったらショックを受けるだろう。自分はここにこうして生きているのに……と。しかし出口さんは、何百人といたその学校の生徒の中から、自分の名前を探し出してくださった先生方に対し、すごいことだと、ある意味嬉しく思ったとおっしゃられた。私は、この言葉を聞き、ああ、そういう解釈の仕方もあるのだと感心した。

長崎国際大学の方々、そして出口さんとの交流を経て、様々なことを考えさせられた。そしてこれらの経験が得られた背景には、今村さんの存在なしにはあり得なかったと思う。

本来ならば、私たち2年が行わなければならなかったことだけに、今村さんに任せっきりにしてしまったことは、多いに反省すべきことだろう。

これらの反省を活かし、次のアメリカ合宿は、自分たちできちんと行っていきたい。そのためにも、各々が自分の係りの責任を持って行動していかなければならない。

また、今回のように、パワーポイント及びレジュメすらできていないようなことがないように、早くから準備しておくことも必要だ。

自分たちのゼミの説明なのだから、そんなに難しい内容ではないはずである。そして、アメリカ合宿を行うことはもうすでに決められているのだから、間に合わないはずはない。そのためにも、一度2年は集まり、今後のことをよく話し合ったほうがいいだろう。

アメリカ合宿では、今回の反省を活かし、準備不足がないようにしていきたい。



(語り部の出口輝夫さんのお話しをうかがい、全員が平和について考える)

長崎合宿

二年 岩井 剛一

今回の合宿が、事件や事故などなく無事に、そして楽しく終われたことをとても喜ばしく思う。今回の長崎合宿では、長崎国際大学との交流会と、長崎原爆資料館での見学及び、語りべさんのお話がとても大きなポイントであった。そのなかで、考えさせられることがたくさんあった。

長崎国際大学との交流会

吉原ゼミの方々と、互いのゼミの研究内容やこれまでの行ってきたことなどを発表し、それに対して質問し、答えるという形で交流会を行った。向こうは思っていた以上にすごく、同じ二年だという木村君のプレゼンは、とても丁寧でわかりやすく、少しかっこいいと思うくらいであり、自分たちで考えた質問でアンケートをするなどは驚きというか、頭が下がるおもいだった。三年の方々は、プレゼンがすごいというより、各々の考えがしっかりあり、一つの質問に対してでも、質問をされた人だけが答えるのではなく、皆がフォローというわけではないが、自分の考えを出し合い、その場で適切で納得の出来る、納得させられる答えを見つけ出そうというのが見て取れた。とても素晴らしいと思っただし、自分もこうなってやると意識を高めさせられた事の一つだ。観光学科ということもあり、皆やりたいことがはっきりしているように見えた。その為か、ゼミへの思い入れや研究による知識にバラツキが少なく見え、円卓組織にしているのもあるだろうがとてもまとまっていた。負けた気がした。負けたといえば中村君の弾き語りだ。やられたと思った人間は自分だけではないはずである。だからといってその場で何か出来たわけではないが、長崎国際大学との交流会はとても刺激的であった。

長崎原爆資料館

原爆資料館は、時間が少なくあまり深くは見て回れなかったが、思わず足を止めて見入ってしまうもの、思わず目を逸らしてしまいたくなるものがあつた。もちろん戦争があつたことは知つていたが、たかだか六十年近く前にあつた出来事とは今の日本を見ても考えられないというよりも、実感がわかなかつた。実際今もわからないが、適当に見聞きしたわけではないし、逆に出来なかつた。実際の原爆を体験された語りべさんの出口輝夫さんのお話を聞いた。まず、原爆の仕組みをプルトニウムや水素など元素記号、さらには科学者の名を織り交ぜ説明してくれた。難しいこと言う人だと思つた矢先にまんまと言われた「難しくてわからないとおもわないでくれ。私は、科学も物理もしてこなかつた。定年過ぎて初めて勉強した。皆さんはできないのでなくやらないのではないか。これからは、若い人が頑張らないといけないのだから。」とても耳が痛くなることばだつた。後ろで先生が全くだと言うように笑つていた。また、昔の政府のような間違いを起こしてはいけないともおっしゃつていた。「間違つていと思つたら投書や座り込みでもいいから動かないといけない。皆さんは主権者なのだから。」と、例を挙げて話してくださつた。こんなところでも人任せにしていることを感じさせられ、まずは身近なところで選挙に行かないと、岩崎君と話した。最後に、ホワイトボードを消したり、出口さんを見送るなど先生に指摘されるまで気が付かなかつた。ここでも、三年に任せていたと反省した。

反省及び改善点

何より下調べが大事だと痛感した。班行動のとき、有意義とはとてもじゃないが言えなかつた。最低限の計画は必要である。今回は、今村君に頼りすぎたかもしれない。旅行系の仕事を軽視しすぎていた。三年にもっと教えてもらい、聞かなくてはならない。自分的には、理解と疑問と自分の考えをはっきりさせ、あたりまえを出来るようにすることが課題である。

感想

一言で言うと楽しすぎた。勝手に楽しんでたのかもしれないが、ゼミ内でも、皆とさらに仲良くなつてしまへたと思う。いい思い出になつたのは間違いない。おどろいたことも多く、中でも一番のおどろきは、自分らが泊まっていたハウステンボスがチェックアウトした次の日に潰れた事だ。考えさせられることも多かつたが、行って良かったと思う。

長崎旅行について

2年 遠藤 裕史

長崎旅行は、私に色々な事を感じさせてくれた。長崎国際大学の吉原ゼミの方と話することができ、自分がどれだけゼミに対しても、普段の生活でも甘い考えを持っていたかが分かり、これから先生がいなくなるということもあり、「しっかりしなくては」と思うことができた。吉原ゼミの方は、自分というものをしっかりと持っていた。自分たちに対して、しっかりとした敬語で話してくれた。自分は先生に対しても、先輩に対しても、吉原ゼミの方に対してもきちんとした敬語を使っていたか？と

いえば使っていなかった。敬語ひとつとってもどれだけ自分が勉強していなかったか分かった。さらに吉原ゼミの方の Power Point を使ったプレゼンを聞いて、さらにその思いは強くなった。「ホスピタリティに関する報告書」を見てみると、本からだけの情報ではなくて、自分たちの足で得た情報というものが反映されていた。私は今まで本を読んでただそれをまとめたいただけなので、今現在自分達が勉強していることに対して、ほかの人の考えというものを無視してきた。本から与えられる情報はもちろん大事だが、ほかの人が自分達のやっている勉強に対してどのように感じているか、どのように考えているか、ということに関してまったく考えていなかった。これからは私たちがやっていることに対して、第三者の意見を聞いてみるということが大切だと感じ、これから自分の友人などにどのように考えているか聞いていこうと思う。吉原ゼミの3年生が作った活動記録全集を見てみると、ホスピタリティに関して一人一人がそれぞれ違った角度から調べていっていた。これはすごく面白いことだと思い、私もこのように調べていきたいと思った。そして自分なりの意見を持って、ゼミの人と話していけば更にいろいろな発見ができると考えた。今回の長崎国際大学との交流会は、自分自身質問したいことがあったにもかかわらず質問ができなかった。という反省が残りもっと積極的に質問をできるように、本を読み、人の話を聞き、自分自身の意見を確立できるようにしていこうと思う。もうひとつの反省として、きちんとした敬語を使えるよう努力していきたい。

語り部の出口さんの話ではとにかく知らない事だらけだった。リトルボーイとファットマンという原爆の名前。グローブスという人が、長崎と広島を選んだこと、ウラン235という物質が核分裂を起こすこと、長崎に原爆を落としたとき本当は目標が小倉であったこと、9発の原爆をつくろうとしていたこと、自分が知らなかったことが沢山あった。出口さんが語り部として自分たちに経験を話すに当たり沢山のことを勉強してきたことが伝わってきた。原爆の恐ろしさというものに関して出口さんという語り部を通じ少し感じる事ができたかなと思っている。実際話を聞いているときは、おとぎ話のような感覚だった。自分では想像もつかないことを体験している人の話を聞き感じたことは、自分自身前から思っていることだが、「戦争はいけない」ということだけだった。もちろん被爆した瞬間の話、周りの人たちの様子など写真では、分からないことを聞きとても貴重な話を聞かせていただきましたが、「戦争はいけない」ということしか自分は感じ取れなかった。全体をどうして感じたことは、人の前で話をするということとはとてもむずかしいということ、自分が体験したことをそのまま伝える難しさ、出口さんの知識の多さ、知識を増やすための努力を強く感じた。自分もこれから努力して行こうと思う。

長崎旅行全体をどうして、長崎という見知らぬ土地に行くことによって感じられたことは、やはり「東京はいいな」と強く感じた。旅行で来るぶんには長崎という土地は良いのだが、住むとなると東京が良いということ。オランダ坂、グラバー園、中華街どれを取ってもイマイチというのが、長崎の町を見たときの感想だ。個人的なことなのだが、一番つらかったのが花粉症で頭は痛い、のどが痛い、鼻がムズムズするといったことに悩まされた。あとゼミの人がどういう人なのかということで、新しい発見があった。



(分不相応な高級ホテル、アムステルダムに泊まる)

長崎合宿

2年 栄村 沙也可

1) 合宿全体の感想

2度目のゼミ合宿。行き先は長崎。初め合宿の話がでたとき、長崎は何度も行ったこともあるし、何か面倒くさいと思い参加したくないと思った。今思うと私はなぜ、参加を拒んでいたのだろうか。今回の合宿に参加でき本当に良かったと思う。ゼミの意味を再認識できた。ゼミだけでなくこれからの学生生活を有意義なものにするのは、自分次第である。今回、ゼミに関しては、気持ちを入れ替える事ができたと思う。今回の合宿が無駄にならないように思うだけでなく、行動に移してい

たい。

今回の合宿では学んだこともあったが、その分反省することの方が多かった。

2) 学んだこと・有意義だったこと

2日目の長崎国際大学との交流会。吉原ゼミのプレゼンはとてもすごかった。ゼミの目的をしっかり持って、今学んでいる事全てに意味があるのだなと感じた。質問に対して、質問された人以外の人にも答えられていて、それぞれが理解をしている事が伝わった。吉原ゼミでは、円卓型で形成されていた。それぞれが、責任を持つ事ができそれを取り入れた事はすごいなと感じた。

交流会では、話の内容も理解できたこともあって、質問もすることもできたし、きちんと参加できたのではないかなと思う。懇親会では、吉原ゼミの人たちとたくさん話をする事ができた。短い時間だったが、仲良くなれた。これからも、連絡を取り合っていきたい。

3日目の原爆の語り部。語り部の前に、原爆資料館を見学した。中学の修学旅行以来で、前にも見たことはあるのだが、今までとはまた違うものを感じた。今回見にことは本当に良かったと思う。語り部をしてくださった出口輝夫さんの話では、戦争の恐ろしさがひしひしと伝わった。同じことは繰り返してはいけないと思う。そして、今回話されたことを多くの人に伝えていきたい。

班ごとの長崎市内観光。限られた時間内で、観光名所とされる所は、見ることはできたし、ちゃんぽん、皿うどんはおいしかった。グラバー園は、他の班が入らないなか、中に入り見学した。初め入場料を出すことを悩んだが、入場料をケチらず入って本当に良かったと思う。

3) 反省点

そもそも、今回の合宿の目的は...? (ゼミ全体の、自分自身の)
分からずというか、何も考えずに参加してしまった。私自身そのせいか、今回の合宿は2年生が中心にならなくてはいけないのに、3年生に任せてしまったと思う。私がしなくても、誰かがしてくれるだろうと甘えがでてしまった。

そして、団体行動だということの意識が低かったため、自分勝手な行動をとってしまった。2度も遅刻をした。私は、今回の合宿だけでなく、普段も時間にルーズでよく遅刻をしている。意識して直さなくては・・・

交流会は、準備不足であった。国際大の人は2年生もプレゼンをしていたのに、何も準備をしてなかった。先生にも言われていたのに、反省するというのはとても情けないと思う。

すべて事前にきちんと準備をしていればと思った。目的も考えずに行動するのは何も意味がないのだと感じた。

4) 改善点

事前の準備を怠らない。生活に余裕を持つ。今しなくてはならないことを考える。

目的を持って行動する。何がしたいのか、何のためかを考える。

責任を持ち、人任せにしない。辛いことから逃げない。

ゼミでの活動は集団行動だということを意識する。遅刻、無断欠席厳禁! 最低任された事はきちんとする。

今回の反省をまた繰り返さないためにも意識の改善をしていきたい・・・したいではなく意識の改善をします!

長崎旅行のレポート

2年 関根 大輔

初めてゼミで東京を出て長崎に行った。今回の旅行は学ぶべきことがたくさんあった。まず一日目、事前に決めておいた班で長崎の市内観光をした。長崎の街に着き路面電車が目に入ってきたとき、長崎に居るのだと実感した。中華街やグラバー園に行きその途中で見えるものが新鮮だった。もっと坂が凄いのかと思っていたけど想像ほどではなかった。ちゃんとした目的を持たず、下調べをしなかったのが時間の使い方が上手ではなかったことが反省点だ。ホテルに行き全員集まったのミーティングをしたけど反省点はどの班も同じようなことだった。集団行動の難しさを改めてわかった。

二日目は長崎国際大学の吉原ゼミとの交流会をおこなった。ここでは、長崎で一番学んだところだ。吉原ゼミでは、ホスピタリティについて研究していた。ホスピタリティとは、簡単に言うと「出会い、触れ合い、高め合い」である。このときホスピタリティについてのプレゼンしてくれたのが僕と同じ2年生の木村君と深堀君だったのだけど、いつも自分たちでおこなっているものより、遥かにレベルが高いものであった。また配られた資料も内容が整理されていてとても見やすかった。これと同じ

ものが作れるかという、自分には自信がない。ゼミに臨む姿勢を考えさせられた。また自分も含めて2年が積極的に欠けていたのがきになった。夜の懇親会はとても楽しく、吉原ゼミの人たちと仲良くなれた。

三日目は原爆資料館と語り部の話を聞いた。戦争について日本人として避けてはいけない問題で、被爆者の人はまだ終わってはいないのだ。今まで戦争について学んできたけど資料館では、言葉がでなかった。今回の語り部の方は、原爆を化学的なことから教えていただいた。そして体験した人の話しは、生々しくて怖かった。現実起こったことなのだけど、信じられる出来事ではない。悲劇をくり返さないためには僕たちの年代が何をすればよいのか考えることが必要だといっていた。

今回の長崎旅行は今村君に頼ってしまった部分が多かったと思う。失敗は繰り返すのではなく、次にどう活かし成功させるかだと思う。次のゼミでの研修はアメリカなので今以上にしっかりと計画が必要だ。また家に着いてからも驚いたことがあった。僕たちが二日間泊まったハウステンボスが倒産したというニュースである。平日だというのに人が結構いて華やかだったけど、入場者が前に比べて大幅に減少していたらしい。不景気をもものすごく近くに感じた出来事だ。

2年 富田 歩

(1) 今回の合宿を通して学んだこと有意義だったこと

一日目

グループでの長崎観光で下準備が万全でなかったのが初めはとまどってしまったが楽しかった。また、長崎の名物はちゃんぽんと皿うどんと聞いたのでお昼に皿うどんを食べてみた。味が濃かったせいか一日中喉が乾いて大変だった。

二日目

午前中、4人乗り自転車を借り、ハウステンボス内を回ってとても楽しかった。実家の北海道ではまだ雪が積もっていたのに、ハウステンボスでは綺麗にチューリップが咲いていたので春を感じることが出来て嬉しかった。

午後の交流会では、木村さんのプレゼンに驚かされた。同じ2年生とは思えないほど完成されたプレゼンで自分の実力の無さを再確認してしまった。また、ゼミ全体が同じテーマを持ち、それに関する知識もしっかり持っていてとても団結しているのを感じ関心した。私たちもしっかりとしたテーマを持ち、知識を蓄え、同じ目的に向かって団結しなければならないと思った。これからの交流会でのプレゼンやディスカッションでは相手以上、最低でも対等の立場である様にしっかりと準備が必要である。

三日目

原爆資料館での見学は私に一石を投じた。出口さんが「普通見過ごすことを『なぜだろう?』と求めて下さい」とおっしゃっていた。だから、原爆資料館で見学し衝撃を受けたままでは駄目で、そこから色々なことに関して考え、自分なりに行動を起こさなければならないと思った。

(2) 反省すべき点

- 下準備が出来ていなかった
- 2年生中心で計画を立てることが出来なかった
- お金をかけなかったためにせっかくの機会を逃してしまった
- 交流会への心構えがなくて、相手に対して失礼になってしまった
- 語り部が終わった後、荷物持ちやボード消などを気付かないで3年生に任せてしまった

(3) 改善点

- 下準備はもっと時間をかけてする
- 2年生が中心となりしっかりと計画を立てる
- 多少お金がかかっても学べる機会があったらお金をおしまない
- 交流会の相手に失礼にならないよう、しっかりと準備をする
- お話を聞かせて下さった人への心遣いと感謝を忘れない

(4) 次回に向けての要望

もう少し時間に余裕が欲しい!!

(5) 合宿全体を通しての感想

グループ分けや部屋割り今までにない組み合わせだったので色々な人と話す機会があって良かった。また、長崎国際大学の学生との交流会では学んだことが多かったのが良かった。これからはたくさんの人と交流し、様々なことを学び、吸収していきたい。

長崎レポート

2年 中村 光一

今回の長崎旅行を通して、まず学んだこととして、語り部で被爆者の方の話をきけたことで、今まで、原爆の話は客観的な説明ばかりしか聞いたことがなかった。

やっぱり、実際原爆というものの恐ろしさを知っていただけあって、「平和」というものに対する思いが伝わってきた。

聞いている間も、勢いというか凄味みたいなものを感じた。

「平和」というものは我々国民にかかっているということを自覚していかなければならないという話を聞いて、自分も選挙を通して積極的に政治参加をしていかなければならないということを感じた。選挙は自分だけでなく、将来の日本を決めていく重要なことだということを改めて感じた。今までは、マスコミで投票率の低下が頻繁に言われていても、とくに流すように見ていただけだった。

しかし、このことは日本の将来を適当に考えている国民が多数存在するというを意味している。そう考えると恐ろしいことだと感じる。

今まさに、「平和」というものをアメリカの言いなりになっている政治家たちに再認識させるべきだと思った。

また、2日目に行われた交流会では、むこうの長崎国際大学の準備を見て、自分達があまりにも何もしていなかったのが、情けなくなった。

また、資料やパワポも使っていたので、それに対して何も準備してこなかったこちらの準備不足を明らかに露呈してしまった結果となった。

しかも、交流会に関しては3年生を依存しすぎてしまった結果となってしまう二重にじぶんのふがいなさを感じた。

班行動については、反省点が多々でることとなった。私は班長であってにもかかわらず、なにもできず、先輩にまとめてもらっていたのでこれが私個人的には一番の反省点である。

班全体で見ると、まず時間の使い方があげられる。目的地を決めず、行き当たりばったりになっていたところもあったので、長崎のことをあまりよく知ることが出来ずに終わってしまった。目的地を決められないというのは、事前の準備が足りないから行きたい場所も分からずダラダラしてしまった。

準備が足りない、行く場所を調べていないということが旅においてどれだけ楽しめるかということに関わってくるのかということが身にしみて分かった。

また、準備が足りないということはやる気が足りないということにつながっていて、今回の旅行は先輩たちに頼りすぎてしまい、自分のやる気が足りなかったことも反省点となった。

反省点が多く出てきた旅だったが、この反省をどう次につなげるかがこれからの課題になってくる。次の旅でも反省点は出てくるだろうが、同じ反省はもうしないようにしなければならない。

もし次に旅行に行くことになったら、今回の反省を生かしてできるだけ反省のない旅をしていきたい。

長崎合宿を振り返って

2年 山下 由佳

長崎市内観光

2月23日、羽田空港から飛行機(私はこの時、初めて飛行機に乗った)に乗り、長崎空港に到着し

た。長崎は天気が良く、とても暖かかった。まだ2月なのに、ぼかぼか陽気。まずは、東京との気温差に驚いた。長崎駅に着いた時、現地の人が薄着なのに気づいた。自分はそのなかに厚着をしているつもりはなかったが、かなり“観光客”といった感じを醸し出していたのかな、と思う。この日は長崎市内観光を中心に班行動をした。私の班は、中華街、大浦天主堂、グラバー園へ行った。

移動はすべて路面電車で、どこへ行くにも100円。長崎市に住む人々にとって路面電車は、なくてはならない交通手段である。私はこの時、初めて路面電車に乗った。

グラバー園では、多くの建造物を見学した。旧グラバー住宅は、現存する木造洋館では日本最古のもので、この洋館は四つ葉のクローバーの形をしていた。建物の周りには、たくさんの花が咲いていて、ついシャッターを押したくなくなるくらい色鮮やかであった。

市内観光後、駅からバスに乗り、ハウステンボスに着いた。

この日の反省で、私は次のようなことをあげたい。

まず、時間厳守。時間を守るということは、団体行動において基本的なことである。スケジュールとして時間がすでに決められているわけだから、誰か一人時間に遅ればすべての予定がずれてしまう。当たり前のことではあるが、一緒に行動する人に迷惑をかけないためにも、時間を守るということは大事なことだと思う。今回の旅行ではそういったことはなかったが、時間ぎりぎりで行動してはだめなのだな、と改めて感じた。

次に、下調べ不足で観光の目的地を定められなかったこと。班行動をスムーズにするためには、もっと長崎の予習をするべきだった。時間をもっと上手に使えたのでは・・・という反省点も出てくる。毎回、こんな反省をしないように、反省点を生かして自ら計画をどんどん立てられるようにすることが必要だ。

3つ目は、班行動ということをしっかり意識すること。他の班と一緒にってしまったら、班を構成した意味がない。班行動だからこそ見えてくることもあるのだから。

交流会

2月24日、午前中はハウステンボスで自由行動。私は4人乗りの自転車に乗って、ハウステンボス内を移動した。この自転車に乗るのも初めてだった。今回の合宿では、初めてのことばかりである。(乗り物ばかり・・・)

この日、長崎国際大学人間社会学部国際観光学科吉原ゼミの皆さんとの交流会があった。大学が創立してからまだ年月が経っていないということもあり、校舎はとてもきれいだった。

吉原ゼミの研究テーマは、『ホスピタリティ』である。最初この言葉を聞いた時、介護や医療に関することをイメージしたが、研究発表を聞いていくうちに、全く違う意味で、一言では言い表すことが難しいことを知った。『ホスピタリティ』という言葉が、まだ一般に定着していないこともあってか、菅原ゼミ一同、ただただ耳を傾けるだけであった。

2年生のホスピタリティに関する調査報告には、ただ驚くばかりで、自分のプレゼンを思い出すと恥ずかしくなるくらい、素晴らしい研究発表であった。説得力があり、自分たちがおこなった調査研究に自信を持っていて、目的意識がはっきりしていた。レジュメもとてもわかりやすく、人を引き付ける魅力がある。明らかなレベルの違い。実際、私も集中して聞いていた。というより、自然に集中してしまう。あんなプレゼンができるように、自分から課題や研究をする意欲を持ち、取り組むことを心がけようと思う。

3年生のプレゼンは、パワーポを使って自分の言葉を選びながら、わかりやすい研究発表だった。ここで、3年生が強調していたのは、「自己・親交・達成」である。これは、組織に所属する個人という存在を形成するための大事な要素で、ホスピタリティには、必要なものだそう。自分のことをよく知り、自己を鍛え、相手と接していく中でアイデンティティの獲得につなげる。とても奥が深いテーマを、とことん追求してもっと一般に広めたいと言う吉原ゼミの皆さんの姿勢は、自分にとって良い刺激になった。いつか越えられるように、真似て、学んで、努力するだけである。

その後の親睦会は、お酒も入って、とても楽しい時間を過ごせた。初めて他の大学の学生と接することができ、学ぶことは多々あった。どれだけ自分の視野が狭かったか、思い知らされたようである。

語り部 - 出口輝夫さんのお話 -

2月25日、最終日。この日、長崎原爆資料館へ行った。語り部を聞く前に、資料館を見学。展示物のあまりの衝撃に言葉を失った。

現在ニュースで騒がれている北朝鮮と変わらないことを、当時日本もやっていたとは衝撃である。お国のために働かされ、天皇を守るために戦争をするなんて。アメリカがイラクに対して武力行使しか考えられない今、いつ戦争が起こってもおかしくない。また、北朝鮮が核爆弾を作れば、また悪夢が蘇る。今年で被爆58年を迎えるが、また同じようなことが起こってしまうのだろうか。

語り部、出口輝夫さんがお話される時におっしゃっていた大事なこと

- ・ 自分の体験を誇張しない。
- ・ 間違ったことは言わない(先入観で話をしてはいけない)。

出口さんは、自ら勉強し、資料を調べ、そして被爆者としての体験を、熱く語ってくれた。出口さんのお話を聞いて学んだことは、一つ一つの言葉通して私にとって、心打たれるものばかりである。

- ・ 見過ごすことをなぜだろうと思え
- ・ 二度とこんなことが起こらないように、私たちが今できることは何かを常に意識
- ・ 人事だと思っている間は何も起こらない

これからまだまだ長い人生を送る私たち世代が、今後の社会をどうすれば不安を少なく過ごすことができるか、自分で考えることが大切なのである。

感想

今回の長崎合宿を通じて、多くの経験を積むことができ、参加して本当によかったと思う。自分から情報を知ろうとする努力と、与えられたチャンスを生かすこと、今しかできないことをもっともって、さらに多くの経験をしていきたい。



(チューリップがきれいなハウステンボス、
長崎合宿から帰った翌日に倒産)